

PR21977

☆ JBN 外0408 (産業、通信) (06・4・6)

【産業担当デスク殿】21977

◎ DRM 2.0が利用可能に OMAの多用途・新イネーブラー

【ラスベガス(米ネバダ州)5日PRN=共同JBN】国際標準を取り決める業界団体のオープン・モバイル・アライアンス(OMA)は4日、DRM(デジタル権利管理)バージョン2.0サービス・イネーブラーが承認済みイネーブラー・リリースとして一般に利用できるようになったと発表した。OMAの取締役会はモバイル、家電、およびIT業界にわたる10カ月間の徹底的な相互運用性テストを受けてこのほど、この新たな標準を承認した。DRM 2.0の到来は、第一級のコンテンツを相互運用可能に配布するための信頼できる標準を開発し、テストするOMAの積極的な関与を表すものである。

OMAのDRM 1.0は2004年9月に承認済みイネーブラー・リリースとして利用可能になり、全世界で400種類を超える携帯機器に既に使われている。OMAのDRM 2.0開発のために、OMAの400社近い会員社のうち66の企業が標準化に貢献した。OMAの新しく、改善されたDRMの顕著な能力の1つは、この標準をITと家電の両方の製品およびデバイスに拡大できることである。例えばOMAのDRM 2.0は、携帯電話の通信事業者が携帯電話の業務を超えて課金能力を持つことを可能にする。

OMAのジャリ・アルビネン会長は次のように語った。

「OMAは無線の世界で、業界およびメディアの関心がデジタル権利と他の技術に関連するIPR(知的所有権)問題に集中したにもかかわらず、製品とサービスの相互運用可能性において不可欠の役割を確立した。顧客は今や、居場所と接続手段にかかわらず、第一級のコンテンツを求めている。OMAのDRM 2.0はコンテンツ・プロバイダーや、ITおよび家電製品のベンダー、携帯電話の通信事業者およびベンダーたちに、相互運用可能なやり方でコンテンツを確実に交換するDRMソリューションを提供する。この相互運用性はモバイル、家電およびIT業界を成功裏に収束させる上でカギを握るものだ。OMAのDRM 2.0は高品質のコンテンツをどんなネットワーク上でも、いかなるデバイスにも交換する真にダイナミックなソリューションである」

OMAのDRM 2.0は昨年5月にフィンランドのヘルシンキで始まった5回に及ぶOMAのテスト・フェストの過程で評価されてきた。200を超える企業間コンビネーションを網羅する28のサービスと64の顧客を含む92の製品実装が評価された。1万件を超える相互運用性テストが成功裏に完了した。

OMAのDRM 1.0は元々、メディアの軽量コンテンツ向けの相互運用性の需要にこたえるよう設計された。DRM 2.0の高級コンテンツ向け標準はより大きな信頼性とセキュリティを提供し、HTTPのような非モバイルのプロトコルを支援し、シェアリング、ストリーミング、サブスクリプション、ギフトイングのような新たなビジネス・モデルを可能にするだろう。

OMAのDRMワーキンググループのウィルムス・ブーセ副会長は「高帯域の無線ネットワークと、移動可能なメディア、より大きなカラー・スクリーンによって、ユーザーが第一級のコンテンツにアクセスすることが可能になった。こうした技術革新によって、通

常はインターネット上で入手可能だった豊かなコンテンツに、モバイルのユーザーがアクセスすることができるようになった。我々はOMAのDRM 2.0 開発に当たってモバイル、IT、家電のデバイス間の相互運用性という明確な目標を設定したので、スーパー・ディストリビューションや、ストレージ、複数デバイスのバックアップのようなコンテンツ・ベースのビジネス・モデルが成功するのを妨げてきた所有権問題解決の障壁の一部をOMAは取り除きつつある」と語った。

OMAの承認済みイネーブラー・リリースであるDRM 2.0の機能は次の通り。

<消費者>

- \* より大きなセキュリティーと信頼管理
- \* 複数のデバイスとストレージ・ソリューションにおいて、コンテンツと諸権利の両方を移動させ、除去し、回復する高度なコンテンツ管理
- \* 単一ドメインで複数のユーザーへのシェアリング
- \* 音楽やビデオ・プレーヤーなど接続していないデバイスへの転送

<コンテンツ・プロバイダー>

- \* 個別に暗号化された諸権利のために高められたセキュリティーと、コンテンツと諸権利の両方のためのインテグリティ(整合性)保護
- \* デバイス取り消しを含む、デバイスと諸権利発行者の間の相互認証のための明白な信頼メカニズム
- \* 確実に保護されたマルチキャストと、連続的なダウンロード向けのユニキャストのストリーミング
- \* 定量時間制、利用制限、コンテンツ・バンドル、サブスクリプション権、ギフトイングのような機能によって提供される新たなビジネス・モデルのサポート
- \* P2Pスーパー・ディストリビューションおよびロコミによるマーケティングと報酬メカニズムのサポート

▽ OMAのリリース・プログラムについて

OMAはこれまで44のイネーブラーを公開リリースした。OMAは引き続きイネーブラー標準を認証させるために相互運用プログラムを運営し、会員の製品とサービス向け実施も行う。イネーブラー・リリース・プログラムは明確な作業プロセスを採用し、それぞれのイネーブラーに対し、2つのカギとなる道しるべをもたらす。

\* 候補イネーブラー・リリースは承認済みの公開技術標準のセットをリリースする。これは製品、ソリューションとして実現することができ、その後に相互運用性をテストする。

\* 承認済みイネーブラー・リリースは、OMAの相互運用プログラム(IOP)を通過した候補イネーブラー・リリースを意味する。IOPではOMA内部、あるいは外部組織との協力を通じて、異なる会員企業間の実施により相互運用性を評価する。

詳細に関しては次のサイトを参照されたい。

[http://www.openmobilealliance.org/release\\_program/index.html](http://www.openmobilealliance.org/release_program/index.html)

▽ OMAについて

オープン・モバイル・アライアンス(OMA)はモバイル業界にオープン仕様を提供し、国、通信事業者、固定およびモバイル・ターミナルの別なく有効で、相互運用可能なサービスを構築している。利用者のニーズで推進され、データ・サービス市場を拡大するため、

OMAの会員企業は新しい、強化された情報、通信、エンターテインメント・サービスの採用を促進している。OMAには、無線市場のバリュー・チェーンの主要な全部門の貢献者が含まれ、サービスとアプリケーションのタイムリーで効率的な導入に寄与している。

(注) オープン・モバイル・アライアンス ( OMA ) の名称とロゴはオープン・モバイル・アライアンス社の商標である。ここで述べた製品、会社名はそれぞれの会社の商標、もしくは会社の製品の商標である可能性がある。

(了)

▽ 問い合わせ先

Stephen Jones of Open Mobile Alliance Communications,

+1-415-265-7204, or

sjones@omaorg.org

or Alexis Braden of Ketchum Public Relations,

+1-415-984-6164, or

Alexis.braden@ketchum.com ,

for The Open Mobile Alliance

Web site: <http://www.openmobilealliance.org>